

成城学園 創立100周年記念講演会

主催 成城大学文芸学部

Ancient
Greece



ギリシア悲劇研究会上演『アガメムノン』1961

古代ギリシア、 遥かな呼び声にひかれて

『東京大学ギリシア悲劇研究会』から、演劇・映画・学術研究の道へ

2017年 10月 14日 [土]

12:30 開場 / 13:00 ~ 17:00

成城大学 7号館 4階 007教室

講演

久保 正彰 (日本学士院24代院長・西洋古典学)

中島 貞夫 (東映映画監督)

細井 雄介 (聖心女子大学名誉教授・美学)

毛利 三彌 (成城大学名誉教授・演劇学)

司会

大谷 節子 (成城大学教授・国文学)

※参加費無料 お申し込み不要

成城学園100周年記念サイト <http://www.seijo100th.info> または「成城学園100周年」で検索

お問合せ先 成城大学文芸学部 TEL 03-3482-9412



古代ギリシア、 遙かな呼び声にひかれて

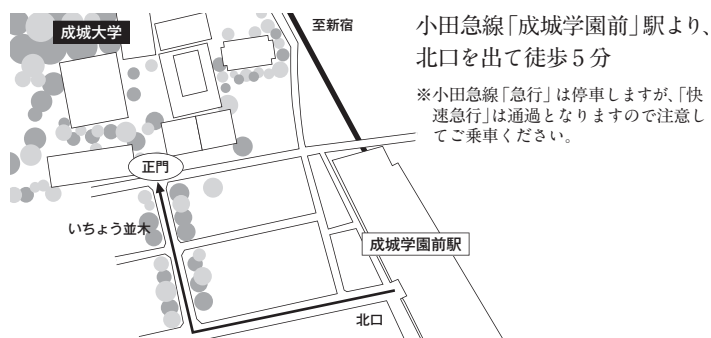
シンポジウム開催の趣旨

すでに 50 年あまり前のことである。東京大学に、演劇研究を志す学生たちによる「ギリシア悲劇研究会」ができた。西洋演劇の発祥とされる古代ギリシア悲劇の研究と、その復元的上演を試みる団体であった。1958 年の『オイディプース王』上演を皮切りに、毎年 1 作を日比谷野外音楽堂で上演した—上演にこぎつけるまでの作品研究が学生たちの情熱の発露であり、上演がその結晶であった。すぐに、他大学の学生も巻き込み、俳優やスタッフには、ときに気鋭のプロに応援を求めた。それが 11 年間つづいた。

時代は 60 年安保をはさんだ激動のさなかにあり、学生たちの〈ギリ研〉経験もまた激動的であった。彼らは数年の学生生活の後には、それぞれの道に歩いていったが、かつての〈ギリ研〉との遭遇は、それぞれの行き方／生き方に、少なからぬ影響を与えた。

この講演会では、そのまま演劇に進んだもの、分野を異にする映画の世界で活躍したもの、あるいは研究をつづけて学術的な成果をあげたもの、それぞれの講師たちに、改めて、あのときの経験とその後の歩みについて語ってもらう。それは、あの時代とは裏腹のような現在の〈安穩〉社会に生きるわれわれに、何らかの示唆／刺激を与えてくれるのではないか、それが本企画のねらいである。

会場へのアクセス



◆シンポジウムの詳細

成城学園 100 周年記念サイト

<http://www.seijo100th.info/>
または「成城学園 100 周年」で検索

※参加費無料

<講師>

久保 正彰 (日本学士院 24 代院長、西洋古典学)

1953 年、ハーバード大学卒業 (古典語学・古代インド語学専攻)、1957 年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。1959 年東京大学教養学部助手、1965 年成蹊大学文学部助教授、1967 年東京大学教養学部助教授、1975 年に文学部教授、文学部長 (1985-87 年)、1991 年退官し名誉教授、東北芸術工科大学初代学長 (1992-98 年)。2004 年に瑞宝重光章を受章。

中島 貞夫 (東映映画監督)

1934- 昭和後期-平成時代の映画監督。昭和 9 年 8 月 8 日生まれ。34 年東映に入社、39 年「くノ一忍法」で監督デビュー、41 年「893 愚連隊」で映画監督協会新人賞。その後「木枯し紋次郎」「日本の首領(ドン)」シリーズなどを発表。59 年の「序の舞」でインド国際映画祭監督賞。テレビでは「大奥」などをつくる。62 年大阪芸大教授。千葉県出身。東大卒

細井 雄介 (聖心女子大学名誉教授・美学)

日本の美学者、聖心女子大学名誉教授。台南市生まれ。東京大学文学部美学美術史学科卒、1962 年同大学院美学専攻修士課程修了、東京大学新聞研究所助手、文学部美学藝術学科助手、1971 年聖心女子大学哲学科助教授、教授。2002 年退職、名誉教授。

毛利 三彌 (成城大学名誉教授・演劇学)

東京大学文学部美学専攻卒業、1965 年、カリフォルニア大学大学院演劇科修了、M.A.取得。1967 年成城大学専任講師、助教授、教授、文芸学部長、2008 年退職、名誉教授。1986 年文学博士 (明治大学)。1985 年、日本演劇学会河竹賞受賞、1989 年、ミルウォーキー大学客員教授、1996 年から 2006 年まで日本演劇学会会長、1997 年、ノルウェー学士院会員。1998 年湯浅芳子賞受賞。

<司会>

大谷 節子 (成城大学教授・国文学)

京都大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士後期課程退学 学位：博士(文学)。

◆お問い合わせ

成城大学文芸学部 TEL 03-3482-9412